

マレーシアから日本へ マラリア (*Plasmodium knowlesi*) の輸入例

2012 年 10 月 17 日 ProMED 情報



マレーシアから帰国した日本人が、マラリア (*Plasmodium knowlesi*) に感染していたことが確認されました。9 月、30 才代の男性が、2 日間の発熱、頭痛、関節痛を訴え、国立国際医療研究センター (NCGM) トラベルクリニックを受診しました。

マレーシアには、2 カ月間、昆虫学と動物学の野外調査のために訪問し、Temenggor、ジョホール Johor、クアラルンプールに滞在しました。抗マラリア薬の予防内服はしていませんでした。帰国 10 日後に発症し、入院時 37°C の微熱、左上腹部痛、軽度脾腫がありました。血液検査では、血小板減少、軽度肝機能異常を認め、ギムザ染色で、*P. malariae* に似た原虫を認めました。患者は、非熱帯熱マラリアと診断され、メフロキンの治療を受けました。3 日後には症状は改善し、7 日間の入院後、合併症なく退院しました。最終的には PCR 検査で *P. knowlesi* が確定診断されました。

今回の患者は、日本で初めて報告された *P. knowlesi* の輸入例です。*P. knowlesi* の感染は、東南アジアを旅行した人のうち、これまで考えられていたよりも、頻繁にみられると思われれます。

〔ProMED 調整者〕

P. knowlesi は東南アジアで拡がっており、第 1 宿主のマカクサル (macaque monkey) の生息分布に一致しています。

Temenggor、ジョホールはマレー半島に位置し、Temenggor はペラ州の北東、ジョホールは半島南部に位置します。